

課題の最前線 EPISODE 01

ICT化の進展と国税組織

現在、我々の社会においては、ICT技術の発展が著しく、AI等に関する記事や報道を見ない日はほとんどありません。皆さんも囲碁や将棋などでAIが活躍していることはご存知でしょう。このICT社会の進展は、近いうちに我々のライフスタイルを一変させることが予想されます。

このようなICT社会の進展は、経済取引等の変革を起し、例えば新たな税金逃れのスキームを生み出すかもしれません。他方、これまで技術的制約によりできなかった様々なサービスの提供、非常に効率化効果が高い事務運営といったことが実現できるといった国税組織にとっても非常に大きなチャンスでもあります。

データ活用の充実

幸いなことに、我々は以前から業務のコンピュータ化(KSKシステム)、電子化(e-Tax等)に積極的に取組んできており、その結果、納税者に関する膨大かつ様々なデータを保有しています。

このデータにAI等の技術を組み合わせることにより、仕事が飛躍的に効率化するばかりではなく、今まで以上に調査等の対象者を絞り込むことが可能といった、我々の果たすべき目標である「正直者には尊敬的、悪徳者には畏怖的」を達成できると信じています。



国税庁 長官官房 企画課
国税企画官

原田 憲

- H6.4 国税庁 長官官房 総務課
- H7.7 関東信越国税局 調査査察部 国税調査官
- H8.7 関東信越国税局 課税第二部 法人税課 国税実査官
- H9.7 国税庁 課税部 法人税課 国税実査官
- H10.7 財務省 主計局 主計企画官付 調整第一係長
- H12.7 国税庁 課税部 資料調査課 調査第一係長
- H13.1 国税庁 課税部 課税総括課 調査第一係長
- H14.1 在ロサンゼルス日本国総領事館 領事
- H15.7 財務省 主税局 国際租税課 課長補佐
- H16.7 財務省 主税局 税制三課 課長補佐
- H17.7 財務省 主税局 税制二課 課長補佐
- H19.7 仙台国税局 総務部 総務課長
- H20.7 弘前税務署長
- H21.7 大阪国税局 課税第二部 法人課税課長
- H22.7 国税庁 課税部 法人課税課 課長補佐
- H23.7 国税庁 長官官房 企画課 課長補佐
- H25.7 東京国税局 査察部 次長
- H26.7 福岡国税局 徴収部長
- H27.7 仙台国税局 徴収部長
- H28.7 関東信越国税局 調査査察部長
- H29.7 現職

システムの見直しと課題

私は、ICTを活用した国税業務の高度化を目指し、5年・10年先を見据えたシステムの見直しに取り組んでいます。当然、容易にシステムの見直しができるわけではありません。システムを高度化するには、単にソフトや機器だけの問題ではなく、既存のシステムや仕事のやり方に捉われることなく、大胆な業務改革(BPR: Business Process Reengineering)を遂行し、組織の見直し、ICT化に対応していくための職員の意識改革を行っていく必要があるからです。

これからの国税組織が求める人材

私そのためには、柔軟な発想のもと果敢に新たな課題に挑戦し続けるリーダーシップを持った職員が必要ですが、このような人材こそがまさに国税庁の「総合職」として求められています。

また、柔軟な発想を生かしていくためにも、国税当局には今まで以上に多様な人材が必要です。もし国税の仕事に少しでも関心を持たれたら、システムは「理系」だからとか、会計知識は「文系」だからとか今までの固定的な概念に縛られることなく、一度、国税庁を訪問してみてもはいかがでしょうか。

